



JII Annual Report 2023

2023年度 活動報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会
NPO Japan Intercultural Intelligence (JII)

外国人住民が日本社会に なじみやすくする

外国人を含めた多様性を活かす「文化共生」の実現

川の考える「文化共生」とは：人びとがそれぞれの文化の良さを保ちながら、様々な文化の持つ素晴らしさを楽しめる。互いにとって暮らしやすい「良き隣人」としてともに生きる、素晴らしい文化同士の出会いによって、新たな公共文化や価値を創造することです。

ごあいさつ A Greeting From Our Chairman

ある環境で生まれ育った人びとが共有する暗黙の常識。それが他の環境で育つ人びとにとってはとんでもない非常識。

社会の多様化によって、常識の行き違いが生み出すトラブルが急増しています。問題は、常識の殆どがもともと善意の産物であるところ。このため、その行き違いは悪意による対立より解決を厄介にすることもしばしば。悲惨な戦争や紛争でさえ、最初はほんのささいな常識の行き違いから始まるのが少なくないのです。

ただ、もとを質せば善意が原点。こじれると一大事に繋がりがかねない事態も、互いに早めに理解さえできれば解決は簡単。いやむしろ行き違いは、双方にとって大きな学びや大切な人生の宝物を与えてくれる機会にもなります。

この解決を、普段誰もがどこでもよく遭遇する「極ごく普通のお付き合い」に求めたのが、現事務局長の楊さんです。日本が大好きで伝統文化への造詣が深く、日本語も流暢。ただ長く日本に住んでいても、時々周囲の状況に上手に適応できず、想定外の困惑に遭遇することもある。妊娠、出産、育児、子どもの病気、教育などから、ごみの分別や普段のあいさつを巡るご近所付き合いのお作法まで。行き違いの第一歩は、たいていの日本人ならなんなくこなせる小さな問題。そこで始めたのが、ご近所の友人との話し合い。最初数人で始まった井戸端会議のような雑談の輪が、話し合いを重ねていくうちに徐々に広がり、今の川に成長してきたのです。

この冊子は、現時点での私たちの学びと、活動の中で少しずつ見つけだした宝物の報告です。

コロナ禍がひと段落し、外国の方と出会う機会が増えました。一方、世界各地で戦乱や圧政が拡大しています。この今だからこそ、私たちは一見小さく見える周囲との関係から、地道に、気長に、じっくりと変えていきたいと考えています。ぜひ仲間に加わってください。

理事長 石川 憲彦

役員紹介 Members of the Board

理事長

石川 憲彦

Ishikawa Norihiko



児童精神科医 人生の大半は、大学（東京、マルタ、静岡）で障害児・者の医療と社会臨床の実践・研究に従事。退官後開業した林試の森クリニック引退後、フリーの精神科医として子どもやマイノリティーの社会参加をサポート。

一人の人間としては、「誰もが例外なくマイノリティー」。そんな一人一人と互いに尊重し合っていると感じるのが、一番充実した時間。

理事

中村 安秀

Nakamura Yasuhide



公益社団法人日本WHO協会理事長・大阪大学名誉教授。インドネシアやパキスタンなど国際保健の現場で活躍し、母子健康手帳を世界に広めた。国内では、医療通訳士の普及など外国人医療の質の向上に努める。どこの国にいても子どもがいちばん好き。

理事

田畑 智砂

Tabata Chisa



弁護士 東京弁護士会所属。マザーバード法律事務所代表。弁護士法人パートナーズ法律事務所（東京）、Siam City Law Offices（バンコク）勤務を経て、同事務所を設立。

東京都内の児童相談所及び子ども家庭私選センターの非常勤弁護士。三児の母。

理事・事務局長

楊 淼

Yang Miao



ファウンダー・文化交流コーディネーター 心理学専攻。日中間政治、経済、文化に関わる国際専門会議にて事務局兼通訳。2010年にNPO法人アジア人文文化交流促進協会を設立。大手企業向け人材育成、人事・組織コンサルティング会社、海外現地法人実務責任者を経て、日本に暮らす外国人住民のサポートに専念する。二児の母。

監事

植松 真理子

Uematsu Mariko

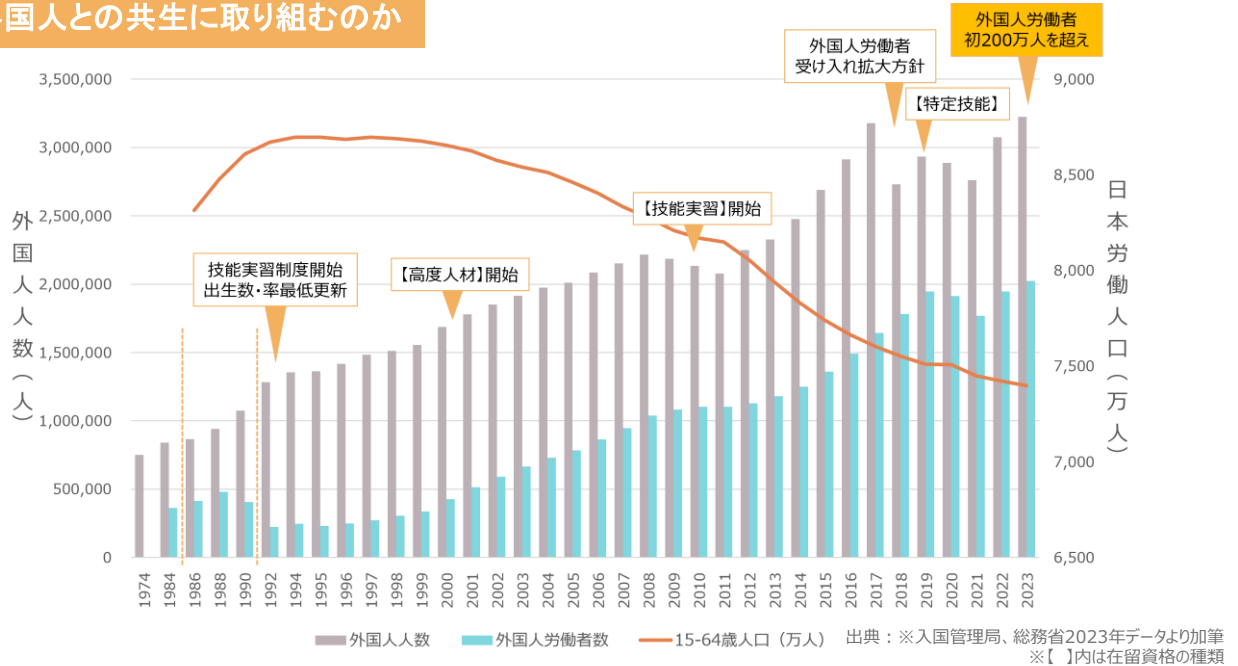


目次 Table of Contents

3	課題の背景「なぜ外国人との共生に取り組むのか」
4	私たちのアプローチ・事業概要
5	2023年度活動ハイライト
6	活動レポート ① 情報提供・相談窓口事業 / ② OFP事業 / ③ 難民・避難民生活支援事業
11	協働・協力
13	川チームからのメッセージ
15	財務報告 2023年度活動計算書・貸借対照表・経常収支の推移（5期比較）
17	川の歩み・2024年度の川
18	ご支援のお願い

近くにも見えづらい「外国人住民との共生」

なぜ外国人との共生に取り組むのか



2023年、日本の高齢者人口の割合が全体の29.1%を超え、出生率は1.2%と過去最低となりました。

人口はこの13年間で大きく減り続けているのに、なぜ日本はGDPの水準を維持できているのでしょうか？

実は、日本の労働人口の減少と反比例して、30年前から外国人労働者が増加し続けています。日本に暮らす外国人住民は300万人を超え、そのうちの外国人労働者は初めて200万人を超え、ともに過去最多となりました。全産業の外国人依存度は33人に1人となり、2013年の倍以上に高まりました※1。外国人が日本の経済活動や人びとの暮らしを支えてきたのです。

しかし、これまでの30年間、「外国人はそのうち帰る」と考えられ、政府は外国人の生活者としてのニーズに充分な対応ができていませんでした。外国人住民は言語、社会制度、生活習慣、文化の違いなどによって、子育て、教育、医療、福祉などの基本的な情報にスムーズにアクセスできず、日常生活に様々な困難や不安を抱えています。依然として日本人コミュニティとつながることも困難で、孤独を感じる外国人住民は年々増加しているという調査結果※2があります。

出入国在留管理庁が2023年に行った調査から、外国人と仕事や友人付き合いがない日本人は69.3%を占め、そのうちの4割は全く接点がないという結果があります。「困っているように見えない」という声に代表されているように、多くの日本人住民にとって外国人住民の日常や実情は「近くにも見えづらい」ものになっています。これだけ多くの外国人が日本に住んでいるのにも関わらず、外国人と日本人は分離したままなのです。また、同調査では、日本人回答者は「共生に向けて自分にできること」について66.2%が「外国人に対する差別意識を持たないようにする」と答え、そのために必要な取り組みとして最も多い回答は「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」ことでした。

しかし、それに矛盾するように「自分にできること」の最下位は「地域の外国人住民との交流の場に参加する」ことでした。これは、共生を実現するためには単なる一過性の「国際交流」では十分ではないと多くの方が感じているということではないでしょうか。

どうすれば共生できるのか？ その答えは本の中でも、ネットの中でもなく、「人間同士としてリアルに関わること」から始まります。日本人は外国人に「日本の文化やルールを知ってほしい」のに教えていない。外国人は日本人とのつながりがないから、助けを求めることができない。分離された社会には不信感が膨らみ、不信感がさらに亀裂（きれつ）を生みます。

そうなる前に、一緒に行動してみませんか。

外国人住民の受け入れは、本人と社会の双方向の努力が欠かせません。真の文化共生を実現するためには、一人ひとりのリアルな経験と意識の変容がカギを握っています。私たちが取り組んでいるのは単なる外国人支援ではなく、未来の日本社会に向けた課題なのです。

日本が好き、日本で子育てをしたい、日本に住み続けたいと思う外国人住民はたくさんいます。彼らの実情を知り、気持ちや願いに耳を傾けてみませんか？外国人住民と良き隣人として共に暮らせる社会に向けて、これからも一人でも多くの皆さんと一緒に活動していきたいと考えています。

私たちのアプローチ Our Approach

短期的、物資的支援を超え、外国人住民が「隣人」となれるよう、ウェルビーイングと地域コミュニティへの参画を促進します

外国人住民への深い理解

外国人住民の立場、心境、行動特徴に基づき、必要かつ本質的なサポートを行い、日本社会での自立を支える。

市民主役

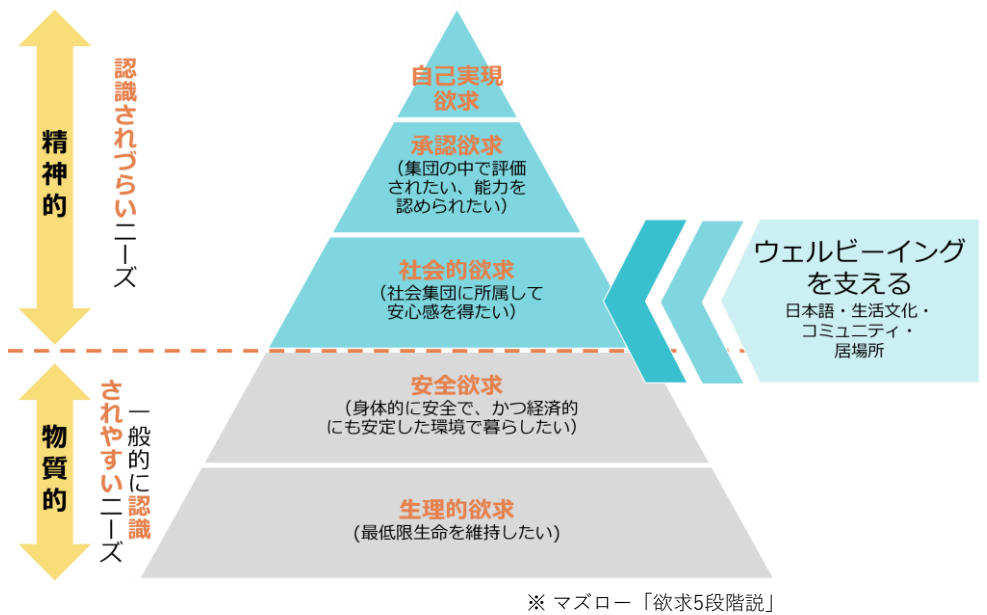
一般市民が主体となって、外国人住民と日常的に広く関わることで、共生に関わる実体験や経験を育む。

リアルに関わる

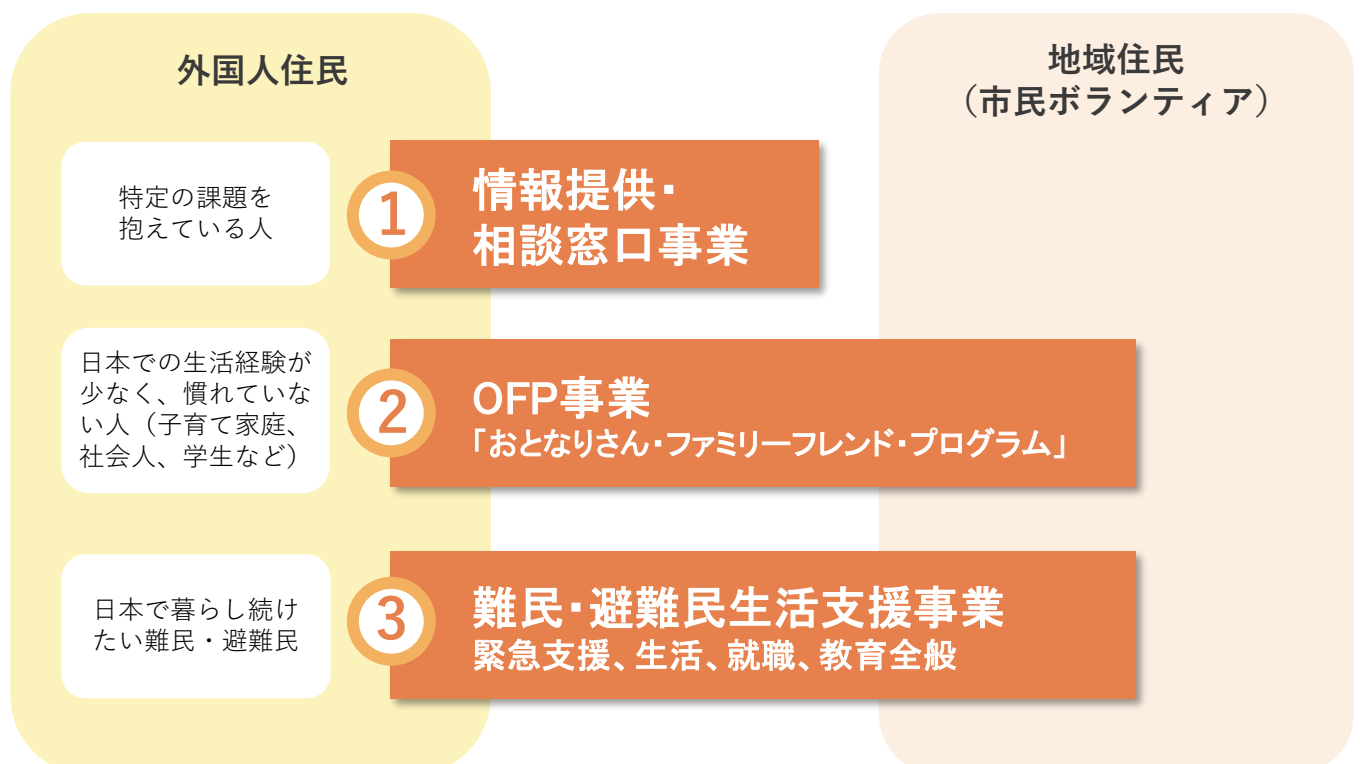
日本人住民と外国人住民が直接関わる機会を多く作り出し、リアルな経験によって新たな公共文化や価値を創造する。

継続的な信頼関係

一過性の表層的な交流にとどまらず、相互理解を深め、中長期に渡り助け合いのできる信頼関係の構築を目指す。



事業概要 Project Overview



2023年度 活動ハイライト Highlight of FY2023

Outcomes (社会的成果)

日本での生活に慣れていない外国人住民は身近に相談・交流できる日本の隣人を得ることで、日常生活の課題を解決し、日本語力を向上させ、日本社会や習慣・文化について理解を深めるなど、社会生活のノウハウを習得できます。よって、外国人住民が「一人の市民」として安心して暮らし、子育てでき、家族も含めて自信をもって自立的な生活を送れるようになります。

日本人住民は、日常生活の中で外国人住民と中長期にわたって直接かかわることにより、外国人との接し方を学び、経験を深めることができます。この双方の努力によって外国人との共生社会の実現に向けて、地道に、確実に社会的変化をもたらします。

参加者満足度

93 %

継続参加率

77 %

ペア数

128 ペア

ペア完走率

93 %

Action (活動)

① 情報提供・相談窓口事業

専門相談件数

56 件

外国人妊婦支援

18 名

② OFP事業

累計
OFP申込者

1,189 名

新規申込者

337 名

外国人参加者
出身地

40 国/地域

OFP説明会

50 回

③ 難民・避難民生活支援事業

支援した
難民・避難民数12 人
(うち子ども6人)

支援ボランティア

16 人

Collaborators (社会認知)

講演聴講者

300 名

連携機関

20 団体

Resources (資源)

有給職員

8 名

運営ボランティア

81 名

プロボノ (個人)

12 名

事業収益

986 万円

※ 成長率158% (対前年比)

(受取寄付金)

368 万円

01 情報提供・相談窓口事業

Providing Information and Counseling Services for Issues in Daily Life

① 情報提供

■ 外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップ（英語開催）

2023年12月に、「専門家に聞こう！外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップ」をJIIと共同開催しました。外国人妊婦さんは、医療者と十分にコミュニケーションが取れず不安があったり、外国人向け両親学級などのクラスが少ないことから、このワークショップを開催しました。クラスの内容は、多文化医療サービス研究会（RASC）の「ママと赤ちゃんのサポートシリーズ」を基盤としました。

参加者の国籍は多様でしたが、とても楽しそうにお互いに状況を共有したり、疑問も解消したりし、ワークショップへの満足度は非常に高かったです。今後も言語を増やしてクラスを継続していきたいと思います。

両親学級だけではない多くの先駆的な活動は、JIIの理念である「互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として共に生きる」ことを体現していると思います。JIIのネットワークを生かし、これからも文化共生を目指して活動を発展させてください。応援しています！



聖路加国際大学大学院
看護学研究科
五十嵐ゆかり 教授



■ 外国人社員向け「生活オリエンテーション」研修

今年度も大手企業の外国人駐在員に対して、日本で生活するうえで欠かせない生活情報を紹介する研修を実施しました。インプットセッションとフォローセッションを組み合わせ情報を提供したあとに、参加者の実生活で感じる課題や疑問にも答えます。

「日本で生活することが初めてだったので、インプットセッションを通じて、コンパクトにかつ外国人のニーズに合わせて実用的なオリエンテーションを受けられて大変助かった」との喜びの声も頂きました。

生活オリエンテーション研修は、外国人社員だけではなく、一緒に来日するご家族向けにもカスタマイズして実施できます。

② 「くらしの相談」生活相談窓口

今年度対応した専門相談

56 件

相談内容

進学、就職・転職、メンタルヘルス、医療、離婚、親権、在留資格の変更や更新、税金や社会保障制度、自動車免許取得、海外からの家族呼び寄せなど幅広い分野

JIIには弁護士、行政書士、税理士、社労士、医師、助産師、看護師、教員、キャリアコンサルタントなど多岐に渡る専門家ネットワークを持っています。くらしの相談窓口は、このような専門家と協力して、外国人住民が日本での暮らしで直面するお悩みの相談を受け付けています。また、OFP参加者に限らず、すべての外国人住民に対して無料で受け付けています。

02 OFP(おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム)事業 OFP

日本での生活に慣れていない外国人向け OFP(おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム)は、主に日本に来て間もない、日常生活にサポートが必要な外国人住民を対象にしています。日本で働く方に同行するパートナーとその子ども、日本で働く会社員や自営業、留学生、難民・避難民など様々な方が参加しています。

日本初の取り組み OFPは日本初の取り組み※として、地域に住むおとなりさん(日本人ボランティア)が外国人住民とペアを組み、半年間一対一で直接交流やサポートを行う画期的な活動です。

外国人住民は、おとなりさんと日本語を練習したり、生活習慣や文化についての疑問を気軽に聞いたり、生活の中の困り事を解決します。また、一緒に地域の活動に参加したりすることで、日本での生活になじみやすくなります。このように、半年間、日常生活における自然な関わりを通して相互理解を深めながら、リアルな信頼関係を築いていきます。

おとなりさんのサポートを得ながら、日本での生活に慣れ、日本語力を向上させ、日本人とのコミュニケーションの仕方を学び、やがて自信をもって自立的に生活範囲を広げられるようになります。

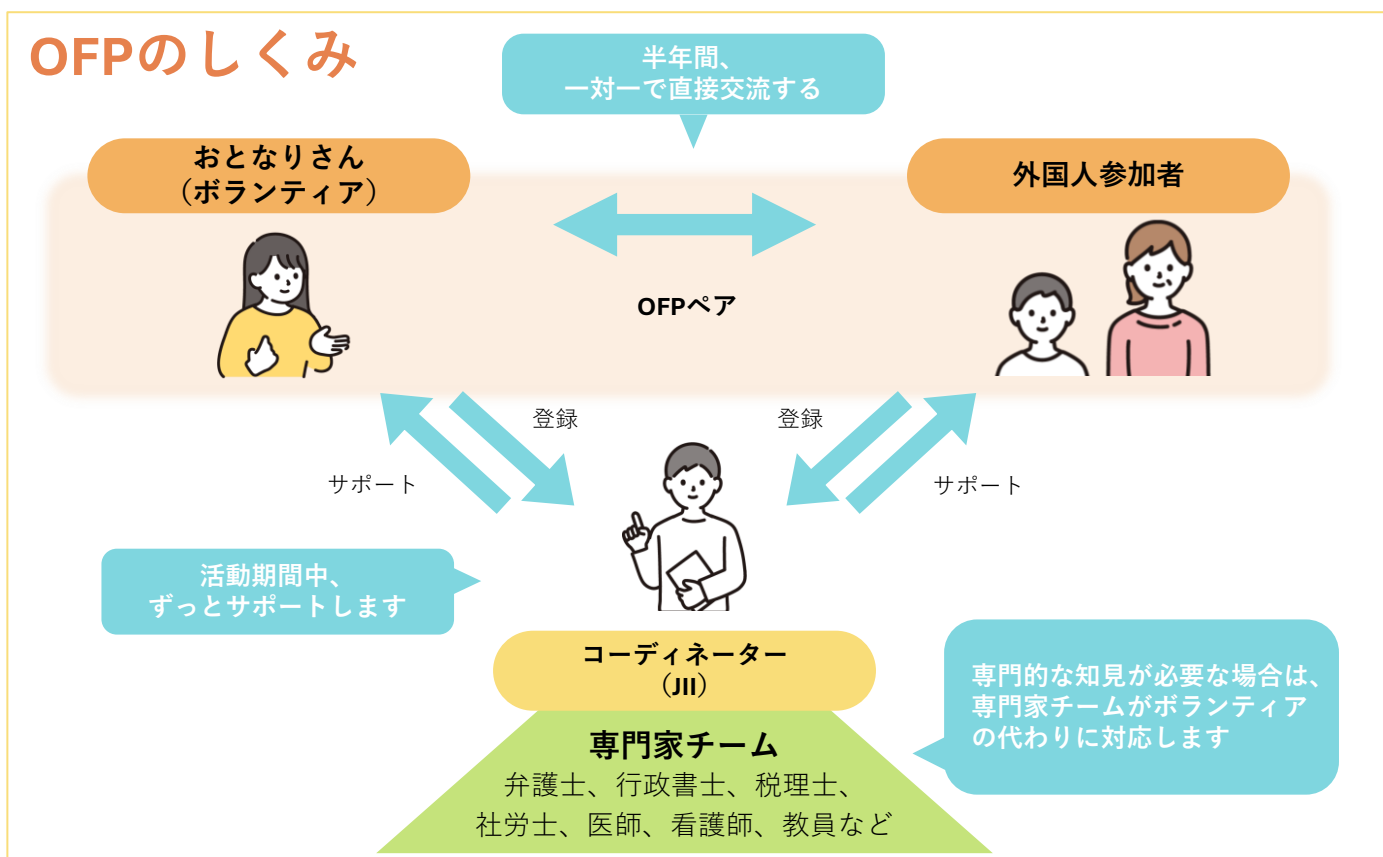
「おとなりさん」たちの得るもの おとなりさんは外国人と長期間リアルに関わることによって、他の文化についての理解が深まります。外国人との付き合い方にも慣れ、日本以外の考え方や価値観に触れることもできます。表層的、一過性の異文化交流にとどまらず、文化の違いを超えて住民同士としての共感が生まれ、「OFPのペア」から「真の友人」になる方も少なくありません。

安心感の高いサポート OFPでは、参加者全員(外国人参加者及びおとなりさん)に対して、本人確認及び詳細なヒアリングを行います。活動期間中もきめ細やかなフォローでペアの活動をサポートしています。結果、満足度の高いマッチングと継続率を維持しています。

参加者が安心安全に活動できるよう常に運営の改善に努めています。

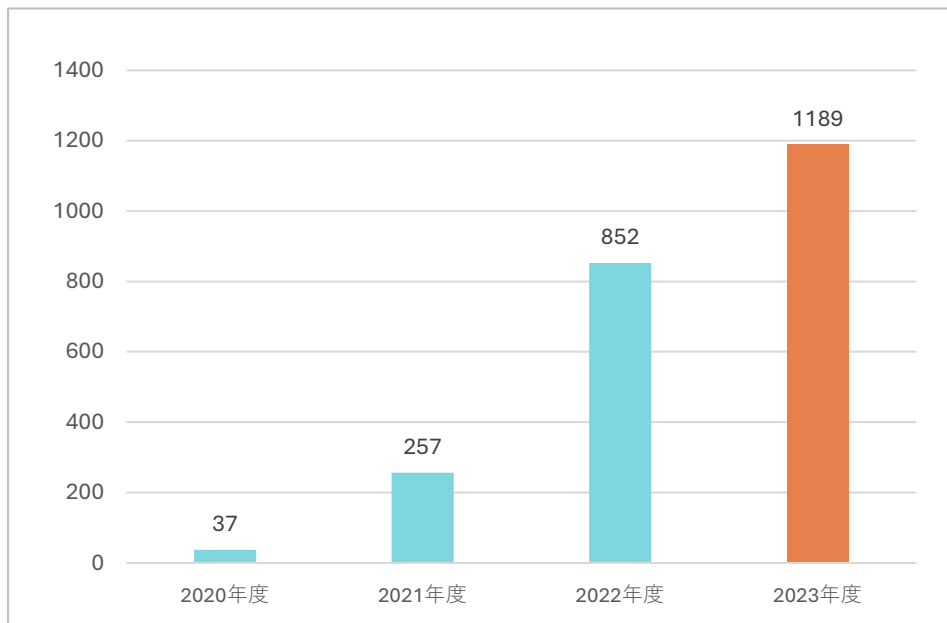
また、専門的な質問や複雑な相談は川側の専門家チームがおとなりさんの代わりに対応し、彼らに過度な負担をかけることなく、日常的なサポートに専念できるようにしています。

※当団体調べ



急増する多くの申込者を受け入れつつ、高い水準の活動成果も維持できました

※ 申込者：外国人住民とおとなりさん



OFP参加者の推移（2020年度～2023年度累計）

累計申込者

1,189 名

外国人参加者 465名
おとなりさん 724名

2023年度新規申込者

337 名

外国人参加者 156名
おとなりさん 181名

説明会
開催数

50 回

マッチング
成功率※

89 %

※ 紹介した方とペアが成立した比率

活動成果

年間活動ペア

128 ペア

正式にペアが成立し、活動をスタートした数

ペア完走率

93 %

6ヶ月間の活動期間を完走した割合

継続参加率

77 %

一度ペアとの交流が終了し、新しいペアを希望する方の割合

「友人に紹介したい」と答えた参加者

97 %

「すでに紹介した」、「紹介したい」を合わせる

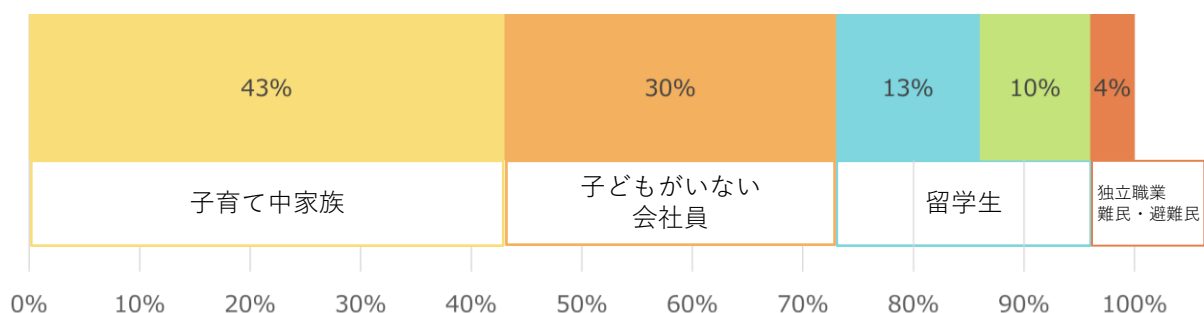
外国人参加者満足度

6.5 点
/ 7 満点

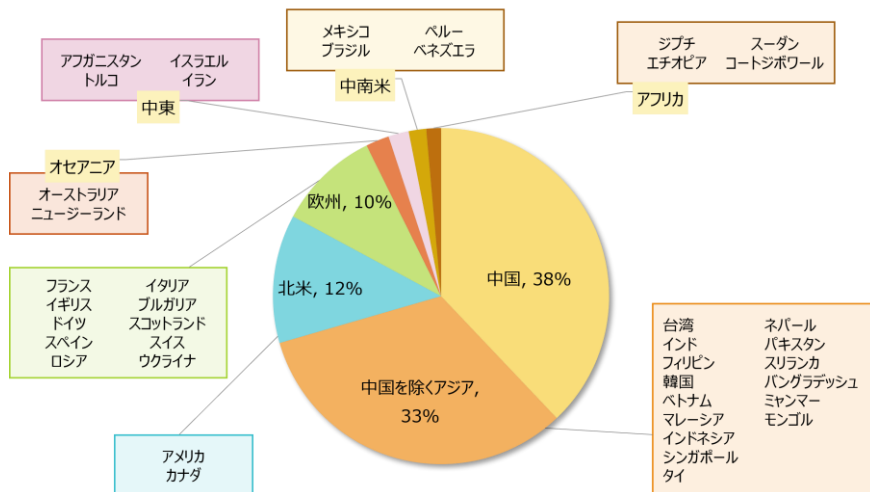
外国人参加者のニーズ

日本語が不自由で必要な情報を手に入れられない／日本語の読み書きができないので、日常生活のサポートしてほしい／文化や習慣を知りたい／身近な相談相手がほしい／妊娠・出産・育児に関する情報不足／周囲とつながりがないので、日本人の家庭とつながって、日本の子育ての相談をしたい／日本のことを教えてくれる信頼できる日本人の友人がほしい／会社以外に日本人との人間関係がほしい／職場での立ち振る舞いが分からない／日本人とのコミュニケーションに慣れたい／実用的な日本語を身につけたい

外国人参加者の属性



40か国・地域からの外国人住民がOFPに参加しています



出身を問わず、アジア、北・中・南米、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、中東など世界中からの外国人住民をサポートしています！

Pick up

参加者の声

<外国人参加者より>



おとなりさん
体験談公開中！



私のおとなりさんは毎週私の日本語の勉強をサポートしてくれました。宿題をチェックしてくれたり、日本語の会話の自然な表現を教えてくださいました。OFPは私たちのような外国人が地域の文化になじんだり、言語のバリアを乗り越えるのをサポートしてくれるプログラムだと思います。(40代女性、マレーシア)

私のおとなりさんは、ワクチン接種や娘の眼科受診の際に必要な複雑な書類を記入するのを手伝ってくれたりなど、大変な状況の時にいつもサポートしてくれました。職探しの情報も提供してくれ、ありがたかったです。彼女は私の人生で会ったなかで一番優しい人で、日本にこのような方がいて嬉しいです。(40代女性、メキシコ)

私のおとなりさんはインターンの面接や就職活動でアドバイスを沢山くれました。(20代男性、中国)

おとなりさんは、息子の出生証明書や私の結婚証明書の日本語訳を手伝ってくれたり、沢山サポートしてくれました。(30代男性、ジブチ)

OFPの仕組みは本当に素晴らしい。日本の国際化に必要なプログラムだと思います。(30代夫婦、インド)

おとなりさんとはいつも気を張ることなくお話ができました。彼はプライバシーを尊重してくれ、言いたくないことは言わなくて良いんだと、安心してコミュニケーションが取れました。彼と友人になれてとても嬉しいです。(40代男性、アメリカ)

OFPは信頼できるプログラムであり、日本のスタンダードをすでに理解している自分でも適切なおとなりさんと会うことができます。(30代夫婦、マレーシア)

私は仕事で英語を使いますので、日本語を話す機会がほぼありません。私のおとなりさんはとても親切なので安心して日本語を話せますし、色々なことを教えてくださいました。私はOFPから沢山恩恵を受けています。この活動をもっと多くの外国人に知ってほしいです。(40代男性、アメリカ)

おとなりさんは日本での日常生活や子育てにおいて、沢山アドバイスをくれました。彼女との交流を通して私自身の日本語の練習にもなっています。最近では、日本の料理を学びたいと言ったら、料理の知識も共有してくれました。一緒に買い物に行って、彼女の自宅でとんかつと巻きずしを作るととても楽しかったです。(30代女性、カナダ)

<おとなりさんより>

ペアの出身地である中国の事をご紹介いただき、今まで知らなかった中国の細かい事を知る事ができました。これをきっかけに、色々な事に興味を持ち勉強してみたいと思いました。また外国の文化を知るということは、自分の国の文化と比較する事になるので、日本についても改めて学ぶことが沢山あります。こういったことは自国の文化を守り育てるという意味でも、とても大切なことだと感じました。(50代女性)

最初のペアがロシア人家族でした。その後、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まり、ウクライナ避難民の支援にも関わりました。息子はその2家族の子どもと友達になりました。それ以来、テレビで戦争のニュースが流れると、子どもなりに状況を理解し、戦争に対する見方・考え方が変わりました。(40代女性)

03 難民・避難民生活支援事業 Daily Life Support for Refugees and Evacuees

緊急支援の終了後、日本社会の住民として「生活」していく上でのサポートを行う

Check
難民・避難民支援の
課題に新たな切り口
で対応

川が行う難民・避難民生活支援は、難民・避難民が中長期的に日本で自立した生活を送れるようになることを目的にしています。

OFPに登録されている「おとなりさん」でチームを組んでサポートを行っています。「一般の方」それぞれが持つ経験やスキルを活かし、彼らの日常生活を直接サポートするという、難民・避難民支援の新しいかたちを実践しています。

支援内容

日本語学習、在留資格の更新、支援申請手続き、就職相談、引っ越し、ネット環境の整備、病院同行、医療機関の情報提供、保育園入園手続き、子どもの就学相談、学校とのコミュニケーション、地域とのつながり確立、定期訪問などをボランティアチームと共に支援しました。

支援した難民・避難民数
12人（うち子ども6人）
ウクライナ・アフガニスタン

直接支援した方



東智美さん

子ども向け

日本語学習支援

ホームページにて
インタビュー記事公開中

東さんはおとなりさんとしても活動されています。ウクライナ避難民家族の子どもを、来日直後から2年にわたり継続して日本語学習を通してサポートしてくださっています。

当時7歳のウクライナの子に教えることになったのですが、手探りの中、週に1回のペースでオンラインで進めていました。その子と通じる言語がないため、「分からないことが分からない」という状況に対するもどかしさはありませんでしたが、翻訳機能で調べたりイラストを見せたりして、理解度を確認しながら、少しずつ進めていきました。

「どうやったら分かりやすく伝わるかな？」などと、色々と試行錯誤しながら進められるので私自身も勉強になっています。

そして、これまでペアになった方々もそうですが、その国の「人・家族」のことを知っていると、日本からの距離が遠くても、身近に考えることができ、よりつながりを感じられると思います。

コミュニティ活動

コロナが落ち着いてきたこともあり、リアルに交流できる機会を求める声も多くいただいていた。それに応え、ペアの枠を越えてOFP参加者同士がつながりを深める機会を増やしました。

10月にはOFP参加者が1,000人を超えたことを機に、OFP発足3周年を記念する交流会を開催しました。

さらには、参加者が主体となり、スキルや興味をテーマとする「コミュニティ活動」をスタートしました。また、横のつながり作りや活動経験の共有を目的に、自由参加の「おしゃべり会」も定期的で開催しました。参加者同士のつながりが深まり、新たな活動を生み出すなど、OFPコミュニティ全体の活力が高まっています。

OFP 3周年交流会



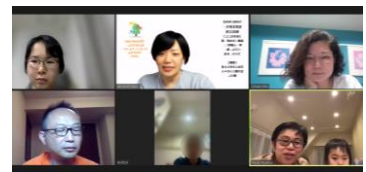
OFP参加者がリアルに集まり、活動の経験をシェアしたり、アクティビティを通して、参加者同士が和気あいあいと交流を深めました。

サークル活動



趣味を軸に「食べ歩きサークル」が発足しました！料理を通して多文化に触れながら、参加者同士のつながりがどんどん広がっています。

おしゃべり会



毎月1回開催し、自由参加で気軽におしゃべりできる機会を設けています。交流における相談や経験の共有、新しいアイデアで盛り上がります。

協働・協力 Collaborating Organizations

事例

Pick up 1

目黒区 健康福祉部福祉総合課 & JII

コメントを頂きました！

区民向け公的サービス（教育・医療・福祉）窓口へ子どもの相談に行く。すると受けられる支援を自力では見つけられない方たちがいる。住民登録の対象外の在留資格で滞在する、外国籍など外国につながる家庭の子どもは、十数年在住でも『区民』の登録はない。その結果、学力優秀で日本語にも遜色がないにもかかわらず、「高等教育無償化」「返さなくていい奨学金」などの利用を選択できない。

連携を依頼した川事務局が、司法分野の専門職と、家族の使用言語の差に配慮して通訳を手配してくれた。法的手続きを経て子どもは『区民』となり、日本で建築士を目指し就労するという将来が見えた。『未来へのドア』を開けてくれた川に感謝する。 **目黒区健康福祉部福祉総合課・生活福祉課（次世代育成支援員）**

Pick up 2

東京都府中市多文化共生センター(DIVE) & JII

昨年度に続き、府中市多文化共生センター(DIVE)が主催する市民ボランティア育成講座に登壇しました。外国人支援を行う市民ボランティアに対して、外国人住民がおかれている環境や課題、支援する者としての心構え、支援を通しての学びなどを伝えました。支援者のあり方や役割について参加者たちとディスカッションも行い、高い評価をいただきました。



Pick up 3

下目黒五丁目自治会 & JII

協働団体としてお世話になっている下目黒五丁目自治会が「まちまるごと下五キャンパスプロジェクト～子どもも大人も一緒に学ぼう社会課題とSDGs～」の下、映画上映会（バベルの学校）を開催しました。

上映会後に、地元住民に外国人住民の現状やニーズ及び社会統合の観点から見えた共生の課題を紹介しました。中学生からシニアまで多世代の参加者と、地域における共生について意見交換も行いました。



協働団体

< 教育機関 >

- ・ 国立看護大学校「国際看護論・日本に暮らす外国人」
- ・ 聖路加国際大学「外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップ（英語開催）」
- ・ 政策研究大学院大学
- ・ 板橋第三中学校「Learning by Givingプロジェクト」

< 企業 >

- ・ Guidable株式会社「外国人人材の定着と活躍」

< NPO・団体 >

- ・ NPO法人Mother's Tree Japan
- ・ NPO法人群馬の医療と言語・文化を考える会（MIG）
- ・ ママサムライ
- ・ NPO法人メタノイア
- ・ 一般財団法人パスウェイズ・ジャパン（Pathways Japan PJ）
- ・ 一般社団法人JP-MIRAI 責任ある外国人労働者受け入れプラットフォーム
- ・ アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム Actions for Afghans (AFA)

川をご支援、応援してくださりありがとうございます！

受賞

第17回「かめのり大賞 草の根部門」を受賞いたしました



公益財団法人かめのり財団による第17回「かめのり大賞 草の根部門」を受賞しました。

「地域住民が外国人住民に直接接し、顔の見える関係で、地域住民が情報の相談役となり、外国人住民の様々な課題解決に直接手助けし、実績は数百件を超えている。深刻な課題（失業、住居を失う、難病、子どもの虐待など）を早期に発見し、適切な専門支援先につなげてきた」と、OFPの活動が評価された受賞でした。

※かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰する賞です。

助成・協賛

赤い羽根 東京共同募金会

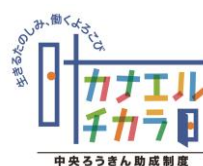


居場所を失った人への
緊急活動応援助成



新型コロナウイルス感染下における
外国にルーツがある人々への支援活動応援助成

中央ろうきん



※システム提供を受けております

Google Ad Grants

株式会社ベルタ

Pick up ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 (SVP東京)

NPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 (SVP東京) と2年間の協働プロジェクトがスタートしました。

OFPをはじめとする事業や団体全体のブランディング、マーケティング戦略、資金調達などの課題を、様々な分野のエキスパートと一緒に検討し、さらなる成長を実現させていきます。



SVP東京協働チームとの戦略合宿

取材・メディア掲載

・ NHK放送大学

「情報社会と国際ボランティア活動第3回」の講義の中で、日本国内で行われている国際ボランティア活動の事例としてOFPをご紹介いただきました。活動中のペアが出演し、体験談を語りました。

・ NPO法人ボランティア活動推進国際協議会日本 (JAVE)

ファミリーで参加できるボランティア活動の紹介及び研究を行う「ファミリーボランティアの事例紹介」でOFPをご紹介いただきました。偶然にもJAVE理事の福島さんがおとなりさんとしてOFPに参加されており、外国人住民とペア活動を体験されています。



放送大学ホームページの番組紹介



おとなりさんとして活動するJAVE理事の福島さんとペアの方

JIIチームからのメッセージ Messages From the JII Team

事務局

スタッフ



楊 森

理事・事務局長

私たちの理念に共感し、ご協力、ご支援くださり、心より感謝しております。日々新しい出会いに恵まれ、おとなりさんや外国人参加者からの喜びの声が一番うれしいです。ひとりでは微力でも、仲間の知恵と助けがあれば、必ず道が開けます。



小林 優里

チーフコーディネーター

私たちの活動にご支援・ご参加くださる方々の声を「多文化共生」実現のためのパワーとして、日々の運営に取り組んでおります。皆さんと共に文化や言語、価値観の違いを楽しみながら協創する未来を描いていけると嬉しく思います。



Shivakoti Aryal Raksha

コーディネーター

川の活動へのご理解に深く感謝申し上げます。皆さまのお陰で、安全でインタラクティブなプラットフォームを作り、運営することが出来ております。外国人住民の一人として、川の活動が日本の未来を形作る上で価値のあるものだと思っています。



猪股 早輝子

コーディネーター・広報

いつも川の想いに共感していただき、温かいご支援をありがとうございます。人それぞれが互いを尊重し合いながら「良き隣人」として生きる。そんな社会の実現を、今後も皆さまと一緒に目指していけたら幸いです。



清水 歩

コーディネーター

川へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。同じ思いを抱く皆さまと、様々な背景を持つ人びとが互いに理解し合いたいと思えるこれからの社会の形について共に考え続けながら、さらに活動を広げていきたいと思えます。



Lukas M. Dickash

エディター

川をサポートしてくださる皆さまがいなければ、私たちが活動を継続していくことは夢のまた夢だと思います。私たちの目標が、日本社会の国際関係をより良いものにするために価値のあることと信じて応援していただき、ありがとうございます。



木下 瑠美子

広報・動画クリエイター

私は日頃から日本で働く外国人の方々と共に働いており、生活の相談に乗っていた経緯から川に参加いたしました。外国人住民とおとなりさんの皆さまが互いに助け合い、楽しく豊かな生活を送る手助けができればと存じます。



笠原 剛士

コーディネーター

川をご支援くださる皆さまのおかげで、私たちは異なる文化や言語を持つ人びとがともに創造する未来を描き、互いに尊重し合う社会を目標に掲げることができます。皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

一緒に川を支えてくださり、ありがとうございます！

運営サポーター

ボランティア

JIIには、OFPの運営を支えてくださる**運営サポーター**が多くいらっしゃいます。

今や運営に欠かせない存在となっているのは、OFP参加者に対して個別面談を担当する「ヒアリングサポーター」の皆さんです。面談では参加者の実現したいこと、希望するペアの条件などを丁寧にヒアリングします。

今年度は10名の方がご活躍してくださいました。ご協力に心より感謝申し上げます。

私がOFPに登録したのは2021年の3月でした。ちょうど3年が経ちました。正直あつという間の3年でした。サポーターとして活動の機会を与えていただき、とても良い経験をさせていただいています。

ヒアリングサポーターとして私と同じような気持ちでおとなりさんの活動に参加されたい方や、外国人参加者の方のお話を伺っているといろいろな勉強になります。特に外国人の方の思いは切実なものがあり、何とかしてあげたいと思う事が多々ありました。

川のイベントで、リアルで皆さんとお会いした時はとても感激しました。事務局の方含めサポーターの方、おとなりさん、外国人参加者の皆さん素敵な方ばかりでした。これからもお役に立てると嬉しいです。



岩間 俊也 さん
運営サポーター歴2年

プロボノ

ボランティア

プロボノとは：ラテン語「Pro（～のため） Bono（いいこと） Publico（公共的）」を語源とする言葉です。社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献ボランティア活動です。

活動の拡大に伴い、2022年度の倍以上である12名のプロボノの方々がJIIの活動をサポートしてくださいました。法務、会計、戦略、書類作成、広報、デザイン、マーケティング、IT、システムなどの幅広い専門分野から支えてくださりました。本職もお持ちでご多忙の中のご協力に、心より感謝申し上げます。

大西 博 さん

Webマーケティング支援



プロボノワーカーとして約2年間、おとなりさん・外国人参加者の募集や川の認知拡大を担うweb広告運用に関わっています。規定のクリック率を2ヶ月連続で下回ると無料アカウントが解除されてしまうので気が抜けません。

川の活動は異文化交流の『あったらいいな』をカタチにした人情味溢れる活動で面白いです。活動に参加する中で外国人住民の困り事とボランティア参加希望者のニーズに触れる事が出来て活動への興味が尽きません。今後、東京都近郊だけでなく、大阪府にも活動範囲を広げてください！

石山 怜子 さん

ブランディング支援



2023年から、プロボノとして主に説明会資料や外部講演資料の作成を中心に川の活動に携わらせていただいています。多文化共生というテーマに興味があり応募したのが始まりでしたが、間接的にでもこの取り組みの推進に関わっていることにやりがいを感じています。

また最初に想定していた業務の枠を超えて、川の今後のビジョンについて考える戦略ワークショップにも参加させていただく機会もいただきました。楊さんや事務局の皆さんの熱い思いに触れることができ、とても刺激を受けています。

プロボノ募集中！

あなたの力で一緒に多文化共生を目指しませんか？

ご自身の専門知識を生かし、JIIの活動を支えてくださる方を募集しています！詳しくは[こちら](#)をクリックいただくか、右のQRコードを読み取りご確認ください。



2023年度 活動計算書

Statement of Activities From FY2023

2023年4月1日 ~ 2024年3月31日まで

単位：円

	科目	金額
① 経常収益	【受取会費】	40,000
	【受取寄付金】	3,687,417
	【受取助成金等】	5,650,000
	【事業収益】	482,770
	【その他収益】	9
	経常収益 計	9,860,196
② 経常費用	【事業費】	
	(人件費)	
	給料 手当(事業)	4,687,358
	ボランティア評価費用	489,000
	法定福利費(事業)	267,278
	福利厚生費(事業)	40,486
	人件費計	5,484,122
	(その他経費)	
	諸 謝 金	110,060
	印刷製本費(事業)	92,578
	会 議 費(事業)	63,624
	旅費交通費(事業)	51,548
	通信運搬費(事業)	204,683
	広告宣伝費	318,299
	事務消耗品 費(事業)	65,074
	賃 借 料(事業)	67,200
	租税 公課(事業)	45,600
	支払手数料(事業)	31,878
	その他経費計	1,050,544
	事業費 計	6,534,666
	【管理費】	
	(人件費)	
	給料 手当	324,000
	法定福利費	36,883
	人件費計	360,883
	(その他経費)	
	通信運搬費 等	197,380
減価償却費	80,174	
その他経費計	277,554	
管理費 計	638,437	
経常費用 計	7,173,103	
	当期経常増減額	2,687,093
③ 経常外収益		
経常外収益 計		0
④ 経常外費用		
経常外費用 計		0
	税引前当期正味財産増減額	2,687,093
	当期正味財産増減額	2,687,093
	前期繰越正味財産額	239,504
	次期繰越正味財産額	2,926,597

11月にOFP登録費を新設し、会費を改訂しました。併せて経済的な配慮が必要な方に対して減免制度も新設。よって、事業収入がやや改善しました。

今年度も多くのプロボノによる専門的なサポートによって、活動内容及び組織運営のブラッシュアップができました。

ウェブサイトの改修や運営オペレーションの自動化を行いました。よって、より効率的に活動の周知ができるようになりました。

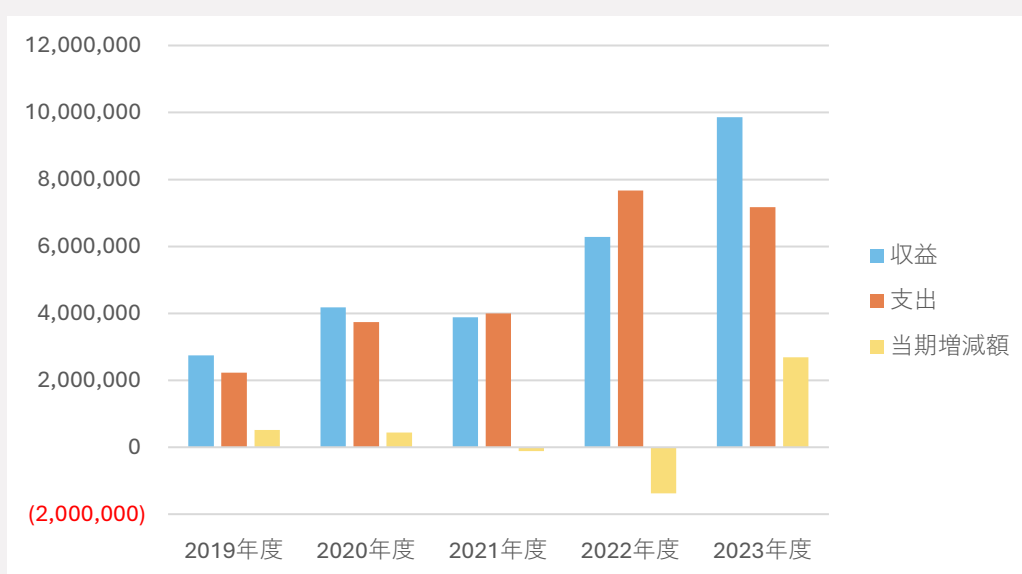
2023年度 貸借対照表 The FY2023 Financial Statement

2024年 3月31日 現在

単位：円

《資産の部》		
【流動資産】		
（現金・預金）		
現金・預金 計	1,006,888	
（その他流動資産）		
その他流動資産 計	1,950,000	
流動資産合計		2,956,888
【固定資産】		
（有形固定資産）		
有形固定資産 計	48,062	
（無形固定資産）		
無形固定資産 計	72,297	
固定資産合計		120,359
資産合計		3,077,247
《負債の部》		
【流動負債】		
未払金	110,817	
預り金	39,833	
流動負債合計	150,650	
負債合計		150,650
《正味財産の部》		
前期繰越正味財産	239,504	
当期正味財産増減額	2,687,093	
正味財産合計		2,926,597
負債及び正味財産合計		3,077,247

経常収支の推移（5期比較） The Flow of Financial Balances Over Five Years



JIIの歩み Our Path

東京都外国人支援助成事業



即興劇による意識啓発公演

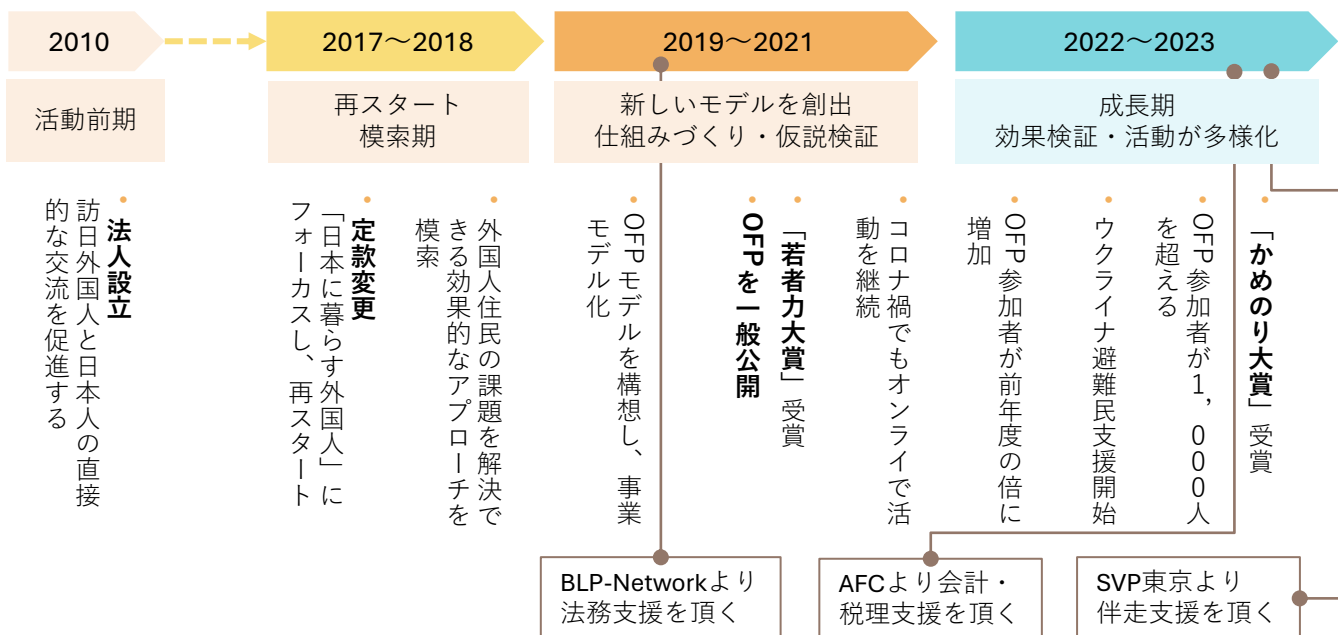


専門家による多言語子育て相談会

OFPを日本で初めて立ち上げ



これまでの活動経験やヒントを活かし、日本で初めて市民主体の外国人住民受け入れの仕組みを考案しました。
半年間のパイロット運営を経て、2020年に一般募集を開始しました。



2024年度のJII ～これからの目標～ Our Goals for FY2024

1

行政、企業、他団体との連携強化

活動参加者の受け入れ規模を拡大し、より多くの方に参加機会を提供する。

2

財政基盤の強化

事業が円滑に継続できるよう、助成金に頼る現状を改善し、安定した財政基盤を築く。

3

活動成果の検証、対外発信の強化

専門機関と協力し、OFPの効果を科学的に検証する。社会に対して広く発信し、理解を深めてもらう。

4

OFPのアップデート及び支援の充実化

さらに多くの参加者を受け入れられるよう、運営体制をアップデートする。多様なニーズに応えられるよう、支援内容をさらに充実させる。

ご支援のお願い

川の活動は、皆さまのご支援により支えられています。私たちは「一時的な支援」に留まらず、人と人の中で対等に助け合い、楽しく認め合う関係という根幹的な価値を大切にしています。そして、それが「国籍」や「文化」のラベルにとらわれることのない社会につながると信じています。そんな社会を一緒に実現しませんか。ご寄付・ご入会いただいた方には、活動報告やメールマガジンをお送りいたします。ぜひ応援をお願いいたします。

会費・寄付金の使途：

OFFをはじめとする外国人住民が日本になじみやすくする活動、難民・避難民を支援する活動費として大切に使用させていただきます。

「川パートナーズ」になって川の活動を支えませんか？

マンスリーサポーターを募集しています。

毎月の定額寄付でご支援いただけます。パートナーズの方には定期的な報告やイベントなどの情報をお送りしています。金額は1,000/月以上でご自由に設定していただけます。法人の方も大歓迎です。

▼お申込はこちら

<https://j-ii.org/support/>



正会員

正会員になっていただきますと、定期的な活動報告のみならず、総会にて表決権があります。

個人：5,000円/年 団体：20,000円/年

▼お申込はこちら

<https://forms.gle/HtmeXB1YJMMuC4weA>



都度のご寄付

お好きな時にお好きな金額でご支援いただけます。

▼お申込はこちら

<https://j-ii.org/support/>



寄付金控除

[寄付サイト「Give One」
からご寄付いただけます](#)

オンライン寄付サイト
Give One



[SoftBank「つながる募金」から携帯料や
ポイントでご寄付いただけます](#)



つながる募金



SoftBank のスマホから
ご利用料金とまとめて寄付



ソフトバンクポイントで寄付



川の口座に直接ご寄付くださる場合

銀行名 住信 S B I ネット銀行（金融機関コード 0038）
支店名 法人第一支店（支店コード 106）
口座種類 普通
口座番号 1418300
名義人 漢字 特定非営利活動法人アジア人文文化交流促進協会
カナ トクヒ）アジアジブンブンカコウリユウソクシンキョウカイ

銀行振込でご寄付いただいた方にもお礼を申し上げたく、お名前、ご住所、ご連絡先、ご入金日、ご入金額をお伝えください。

ご連絡はこちらまで



info@j-ii.org



03-6452-3760

外国人住民と共に生きよう

JIIが見ている未来は …… 外国人を含めた多様性が活かされる社会です。

「人々がそれぞれの文化の良さを保ちながら、様々な文化の持つ素晴らしさを楽しむことができる。

互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として、ともに生きる。

そして、素晴らしい文化同士の出会いによって、新たな公共文化や価値を創造することができる」

という文化共生社会を目指しています。

「外国人住民が日本社会になじみやすくする」ことが私たちのミッションです。

応援、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

毎月のご寄付

都度のご寄付

ぜひ、JIIパートナーズ
として活動の継続を
支えてください！



【発行元・お問い合わせ】

特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会

NPO Japan Intercultural Intelligence (JII)

〒153-0064 東京都目黒区下目黒5-27-5

03-6452-3760

info@j-ii.org

<http://www.j-ii.org>

【制作】猪股 早輝子 【表紙・ロゴ イラスト】今中 信一 【発行日】2024年7月10日

Facebook



Instagram

